

過去、今、未来の話を英語で

テルキ デイブ¹

1. 時を表す

話の中で、ある行動や行い、作用、状態などを言うときは、それを「した」のか、「今、している」のか、「これからする」のかなど、何時のことかも示さなければなりません。これを示すものは次の三つ：(1)時を表す語句節、(2)時制（動詞の形の変化、動詞句など）、(3)その場の状況（前後の話、文型、声の調子などを含む）。示される時、たとえば「昨日」、「今」、「明日」などの語句節は英語も日本語もほぼ同じですが、それに合わせて用いる時制、動詞の形がだいぶ違いますから、英語の学習者にとって大きな難問となっています。

従来の英文法の解説によると、英語の時制は全部で12種類と言っています（文献①p.50）：

◇基本時制：	過去	現在	未来
◇進行形：	過去進行形	現在進行形	未来進行形
◇完了形：	過去完了形	現在完了形	未来完了形
◇完了進行形：	過去完了進行形	現在完了進行形	未来完了進行形

¹白鷗大学教育学部
e-mail : dat@cat.email.ne.jp

これらの時制の形を教えて、それぞれの示す「時」の説明も行っているのに、説明がどうもうまくいっていないところがあることは、学生たちの英作文からよくわかります。

本論文では、学生たちの英作文で過去、現在、未来の話をするときの間違いの原因を探りながら、英語の時制を、「形」としてよりも「表したい時」から改めて考えたいと思います。

2. 過去・今・未来、「基本の時」を示す

英文法によると、「基本時制」には「過去」「現在」「未来」の三通りがあると言っています。形として考えればそうかもしれませんが、しかし、普通に会話をしている人々から考えてみましょう。多くの場合はその動作などは「過去に行った」のか、「今、行っている最中」なのか、それとも「これから未来に行く」のかを言うことが最も多いでしょう。したがって、「過去」「今」「未来」が「基本の時」と言えましょう。すると、これら「基本の時」を示す時制はどれなのか、ということになり、語学の授業でしっかりと教える必要があります。

日本語なら、過去の動作などを完了の「した」、今行っている最中の動作を進行の「している」、未来の動作を未完了の「する」、またこれらの組み合わせを用いて、時を表す語句節を加えたりして、いつのことかを表します。しかし、その場の状況も日本語ではとても大切です。たとえば、同じ現在形の「食べる」にしても、前後の話や声の調子などによって、いろいろと異なる時や用途を表すことができます：

「カレーは食べる？」 食べ物の好き嫌いの話で、カレーは好きかといった意味。

「カレーを食べる？」 どんな種類の食事をするかの話。

「カレー、食べる？」 誘う感じ。

一方、英語で基本の時を示す時制は次のようになります：

動作、行動、行い、作用などの場合

過去に行って終わった動作などの過去時制：did

今行っている最中の動作などの現在進行形：be doing

これから未来に行う動作などの未来時制：will do、またはbe going to do

状態の場合

過去にあって終わった状態の過去時制：was、were

今続いている状態の現在時制：be (is、am、are)

これから未来に存在する状態の未来時制：will be、またはbe going to be

be以外にも「状態を表す」と考えられる動詞には、「～がある」「持つ」の意味のhave、possess（所有する）、belong（所有する、所属する）、「のように見える」のseem、look、appearや、「～に似ている」のresemble、目、耳、鼻から入ってくる状態を表すsee（見える）、hear（聞こえる）、smell（匂いがする）、心理状態を表すknow（わかる、知っている）、understand（理解する）、think（思う）、believe（思う、信じる）、like（好く、好き）、love（愛する、大好き）、hate（嫌う、大嫌い）、want（ほしい）、hope（望む）、wish（あってほしい）、need（要る、必要）など。

基本の時を示す英語の時制を図にまとめましょう。矢印は時の流れを表しています。

	過去	今	未来
		✕	
<u>動作</u>	did 「した」	be doing 「している最中」	will do 「これからする」 be going to do
<u>状態</u>	was 「だった」	be 「だ」「なっている」	will be 「これからなる」 be going to be

以上は話の中で最も表すことが多い「基本の時」に用いる時制です。英語の時制の12種類の一部にすぎませんから、残りの時制を下記の個所で取り上げます：

動作などの現在時制 ⇒ 3. と 7.

過去進行形 (was doing) ⇒ 4-2.

未来進行形 (will be doing, be going to be doing) ⇒ 6-6.

状態の進行形 (be being) ⇒ 6-2.

完了の各時制 ⇒ 5.

3. 動作の現在時制は「現在」を示すか？

3-1. ある雨の夜の出来事

昔、電車で通勤していたことがあって、家から駅までは自転車で15分ぐらい。その日、帰りが遅くなって、駅に降りたのは夜11時ごろ。雨がごうごう降っていました。朝出た時は青空だったから、傘なんか持っていなかったし、いや、持っていたとしても役に立たないほどの大雨でした。すぐに止む気配もないので、仕方なくタクシーで帰ろうと決心しました。タクシー乗り場は駅のすぐ前でしたが、屋根がないので、4～5メートル手前の駅の入口で待つことにしました。

電車を降りたのは自分一人だと思っていましたが、しばらくすると一人の中年男性が改札口を出て、ぼくの方に歩いてきました。『あっ、外人だ』

とわかったらしく、Do you take a taxi?と聞いてきました。

男性の言おうとしていることがもちろんわかっていたのですが、疲れていたせいか、わざと、「いいえ、いつもは自転車なんですけど、この雨では無理なので、今夜だけはタクシーで」、と答えました。男性は『え？なんて変なことを言うんだ』っていう顔をしましたが、『まっ、外人だから』と肩をすくめてぼくの後ろに並びました。

しかし、「変なことを言う」理由は「外人だから」ではなく、実は男性の使った現在時制のtakeが問題なのです。

動詞を辞書に記載する際に用いられる形（見出し語の形）は、日本語の場合は「乗る」などの現在形で、英語の場合はtakeなどの現在時制（現在形ともいう）、となっています。おそらく英語の単語を覚えたときも、take = 「乗る」（取る、受けるなど）と、男性は暗記しているでしょう。したがって、Do you take a taxi?と言ったときに、英語の現在時制のtakeもその場の状況（大雨、タクシーを待っている様子など）で日本語の現在形の「乗る」と同じように解釈してもらえんと思いでいたのです。つまり、「タクシーに乗りますか」、というのです。しかし残念ながら、英語の「現在時制」はそうは解釈できないのです。

このような思い込みをしているのは男性だけではありません。英語の時制の「12種類」を形としてしか習っていない日本人のみなさんがよくなさっています。一方、「基本の時」の過去・今・未来の表し方をしっかりと習っていれば、男性の言っている「タクシーに乗りますか」はこれからの行動について伺うものなので、これからの事柄を表す未来時制を使うんだねと思っ、Are you going to take a taxi?と言うはずだったのです。

つまり、ぼくの返事は男性の言おうと思っていたことに対してではなく、現在時制を使って実際に言ったことに対してのものだったのです。では、英語の現在時制とはどういうものなのか、「いつ」、「どの時」を示すかを見

テルキ デイブ

てみましょう。

3-2. 現在時制の示す「時」とは？

時の流れの図をもう一度見ましょう。



では、英語の現在時制は「過去」か、「今」か、「未来」か、「いつ」を表すか、矢印のどこかを指でさして御覧なさい。ヒント：日本語の「バナナが好き」の「好き」はいつなのでしょうか。「バナナが好き」と言ったら、過去のことでもないし、今に限って言っているのでもないし、これからだけでもありません。むしろ、好きは好きですが、「いつ」とは言っていないのです。これこそが英語の現在時制。つまり、その動作は「する」、その状態は「ある」とは言っているが、「いつ」とは言っていないのです。

したがって、たとえば、Do you eat curry? という英語は、好き嫌いの話の「カレーは食べる？」という意味になるが、これから「カレーを食べる？」、つまり未来の行動を表すのには用いられないし、「カレー、食べる？」のように人を誘うのにも使えないのです。男性の聞いたDo you take a taxi? も同じで、「タクシーに乗りますか」ではありますが、これからどうするかの話ではなくて、いつと言わずにぼくの習慣、日常のことを伺っている質問なのです。「いいえ、いつも自転車ですけど」と返事しますよね、当然。

3-3. 「日常」「頻度」を言う現在時制

英語ではこれから「する」一回のみの動作などを言うときは未来時制を用います。

Are you going to take a taxi?

「タクシーに（これから）乗りますか」

We are going to have curry for dinner this evening.

「今日の夕食にカレーを食べる」

現在時制は日常の行動や習慣を話すときによく使い、「普段」とか「たいてい」などの語句*と組んで用います。

We don't usually eat out, but today is special.

「普段外食はしないが、今日は特別」

I generally watch TV in the evenings after dinner.

「たいてい夜食事の後テレビを見ています」

*commonly（通例、一般に）、customarily（通例、慣例上）、routinely（日常に、決まって、定期的に）、habitually（慣習的に、常習的に）なども合います。

その動作、行動、行いなどの「頻度」を言うときにも現在時制を使います。always（いつも）、often（よく）、sometimes（ときどき）、never（することがない）が基本ですが、頻度をもっと微妙に表す語句がほかにもたくさんあります。

I almost never [hardly ever] take a taxi.

「タクシーを利用することはほとんど「めったに」ない」

Jack quite often travels to China on business.

「ジャックは仕事でけっこうよく中国に行っているんだ」

I sometimes watch TV in the evenings, but more often not.

「夜ときどきテレビを見ることがあるけど、見ないほうが多い」

また、日常的行動をいつ、どのくらいの頻度でやるかを示す言い方は次のようになります：

I call my parents everyday [every week, every Saturday].

「親に毎日 [毎週、毎週土曜日に] 電話しているんだ」

I walk the dog mornings and evenings, twice a day.

「犬の散歩は朝と夕方一日二回やっている」

Our club meets the third Wednesday of each month.

「クラブの会合は毎月の第三水曜日」

I write my parents whenever [only when] I need money.

「金が必要になるたびに[時だけ]親に手紙を書くんだ」

現在時制、現在形のさらなる使用や意味については7. 参照。

4. 「過去」の問題

4-1. 過去の動作、行動、行いなどを言う

英文文のトピックとして、「中学校、高校、そして今の部活」というのを言い出すことがあります。このぐらいは簡単だろうと最初思っていました。が、過去の話をするのに思いがけない落とし穴が潜んでいました。

たとえば、次の文章を英語でどう表現しますか。

(1) 今日野球をやった。

(2) 中学校で野球をやっていた。

両方とも過去にやったことを言っています。(1)は日記を書くときによく出てくるような文章で、I played baseball today.と、学生にとって難しくないうです。これに対して、(2)は部活の話のときによく書かれるような文

章ですが、その英語がどうもうまくいきません。引っかかるのは、「やって
いた」、つまり三年という期間を続けて「やっていた」という事柄を英語で
どうやって表現したらいいか、というところです。

もともと「基本の時」を表すことから英語の時制を習っていれば、たと
え一瞬の動作でも、三年間など長い期間続けてやっていた行動でも、「過去
のことだから、過去時制で表す」と考えて、I played baseball in junior high
school.のような英文を書くはずです。「その期間中やっていた」という意
味合いをもう少し出すなら、I played baseball during junior high school.と
いうふうには書けばいいでしょう。「ずっとやっていた」をもっと強調する
なら、allを加えて、I played baseball all during junior high school.とか、I
played baseball all through junior high school.というふうに言います。

ところが、学校で教わったのは基本の時の表し方ではなく、英語の「時
制の12種類」です。この12種類の中には「過去」とか「完了」がつくもの
はいくつもありますが、それぞれの時制がどの時を示し、どのように使わ
れるかなどについてはよくわかっていないため、学生の作文を読むとわか
りますが、ただ手当たり次第にどれかの時制を選んで「野球をやっていた
」を表現しようとするのです。次のような文章がよく見られます。

- (a) I was playing baseball in junior high school.
- (b) I was play baseball in junior high school.
- (c) I was played baseball in junior high school.
- (d) I have played baseball in junior high school.
- (e) I had played baseball in junior high school.

(d)と(e)は「完了形」で、**5.** で取り上げています。

(c)のwas playedは受動態be doneの過去形。受動態は本論文の対象外とな
るが、参考のために学生の書くような英文とその日本語訳の例をいくつか
挙げましょう。

×I was played baseball in junior high school.

「中学校ではぼくが野球をやられた」

×We were practiced every day after school.

「ぼくらは毎日放課後練習をやられた」

×I was not played baseball in high school.

「高校ではぼくは野球をやられなかった」

このような間違いはどこから来たかを考えてみましょう。おそらく、I was interested in music in high school. 「高校では音楽に興味があった」とか、I was finished with the homework two days ago. 「宿題は二日前出来ていた」などのような文が原因ではないかと思います。一見、過去の動作を言っているようですが、実際にはこの場合のinterestedとfinishedは形容詞で、wasと一緒に使うと「過去の状態」を述べる文章となります。「動作」と「状態」の意識も学生には薄いようです。

(b)のwas play、つまりwas doは、be doの過去形として使われているようですが、残念ながら、be doという文法は存在しません。学生でも、今の話として×I am play baseball.のような文章を書くことはあまりないのに、過去の話となると、×was doの形を使った文章が意外と多い。

×My parents were play tennis when they were young.

「親は若いころテニスをやっていた」

×I was take English composition last semester.

「前学期英作文をとっていた」

言うまでもなく、上の文章は過去の話なので、過去時制を用いて、My parents played tennis when they were young. I took English composition last semester.となります。

しかし、この×was doという言い方がどこから来たのでしょうか。一つ

考えられるのは、My parents were playing…、I was taking…の過去進行形のもりだったが、～ingを忘れた、というのがありうるのです（4-2. 参照）。あるいは、be+形容詞の過去時制の、My parents were good at tennis when they were young. 「親は若いころテニスが上手だった」といった文章と、頭の中でごちゃごちゃとなってしまったのかも知れません。いずれにしろ、こうした間違いをしないように注意する必要があります。

4-2. 当時の状況を描く

(a)のwas playingはbe doingの過去時制。be doingイコール「している」、したがって、was doingイコール「していた」と学生が覚えていることが多いので、「中学校で野球をやっていた」がI was playing baseball in junior high school. となるのが当然。問題は日本語の「している」は話の流れなどの状況によって、いくつかの異なる意味になります：

- (1) している最中の動作：「今テレビを見ている」
- (2) 日常の話や、事実、事柄など：「毎日テレビを見ている」
- (3) 経験：「中国には三回も行っている」
- (4) 完了：「宿題はできているよ」「その映画はまだ見ていない」

一方、英語のbe doingは日本語の「している」と違って、(1)「している最中」の動作・行動などを言うときにのみ用いて、(2)(3)(4)を話す場合には使いません（be doingのより詳しいことは7. を参照）。したがって、過去のwas doingの正確な訳は「していた最中」、または「している最中だった」ということになります。すると、I was playing baseball in junior high school.を日本語にすると、「ぼくは中学校で野球をしていた最中」となるのですが、これを聞いた相手は、「え？それでどうした？」と、話の続きを待つでしょう。つまり、was doing「していた最中」は過去にやった動作などと言うよりも、当時の状況を描くのに用いられ、その状況の中で別の何

かがある、というのです。形式的に言うと、「Aをしていた最中、B」。次の例文が使い方の見本となります。

The phone rang when [while] I was taking a shower.

「シャワーを浴びていた時 [最中] 電話が鳴った」

When the phone rang, I was taking a shower.

「電話が鳴った時は、シャワーを浴びている最中だった」

As I was walking around Ginza I happened to run into Alice.

「銀ブラをしているところ、偶然アリスに行きあった」

I was speaking with Taro the other day and he said...

「この間太郎と話をしていたら、彼は…と言った」

授業中でもwas doingをよく使います。ある学生に質問して「え?」「何?」と答えたら、What were you doing?「何をしていたの?」Were you sleeping [dreaming]?「寝て [ぼうっとして] いたの?」と、こっちの話を聞いていなかった状況を尋ねます。

過去のある指定の時の状況、様子、具合を語るのにも使います。

Jack was behaving strangely all day yesterday.

「ジャックはきのう一日中変に振舞っていたの」

All through 12th grade I was dating this girl.

「高校三年ずっとある女子につき合っていた」

We were even thinking of getting married.

「結婚しようかとも考えていたんだ」

しかしこの場合、was doingの描く状況があくまで「一時的」なもので、「終わっちゃった」というニュアンスが強い。(7-2. 参照)

当時の状況にalways (いつも)、forever (いつまでも、年中)、constantly

過去、今、未来の話を英語で

(常に)、continually (絶えず) を加えると、いつまでやっても満足できるような結果が出ない、または、「こっちが望むようにならないから」という、苦情を訴えるような言い方になります。(7-3. 参照)

Young Darwin was forever asking questions.

「若きダーウィンは年中質問していた」

During the Cold War years the U.S. and Russia were continually trying to outdo each other.

「冷戦時代では、アメリカとロシアは絶えず互いに打ち勝とうとしていた」

I dated her in 12th grade, but she was always either studying, or talking with her friends.

「高校三年の時つき合っていたけど、彼女はいつも勉強していたか、友だちとしゃべっていたからな」

期待と現実の違いを述べるのにも was doing を用います。

I was looking forward to seeing him, but he never showed up.

「彼に会うのを楽しみにしていたけど、ついに現れなかった」

We were planning on fifty people, but only ten showed up.

「50人を予定していたが、たった10人しか来なかった」

必ずしも悪いほうだけではありません。

I wasn't expecting to do well on the exam, but I got 98 out of 100!

「試験はうまくいくななんて思っていなかったが、100点満点中98点取ったぞ」

自分の意見や提案、お願い、勧誘を和らげた言い方にも使えます。

I was wondering, wouldn't it be better to phone first?

「思っていたけど、前もって電話したほうがいいのでは？」

I was thinking, maybe we could visit Paris this summer.

「この夏、パリに行けたらと思っていたけど」

I was hoping you could help me with the homework.

「宿題を手伝ってもらえるかなと期待していたけど」

We were hoping you might come to Kyoto with us.

「私たちと一緒に京都に行けたらと思っていましたが」

5. 「完了」って何？

×I have played baseball in junior high school.

「中学校で野球をやっていた」という意味の文章じゃなくても、「中学校で野球をやったことがある」としてよさそうだけど、どうしてだめなのと、学生から聞かれることがあります。

I have played baseballのhave（～がある）は、**2-1** で説明したように、「現在時制」で、今の状態を示しています。一方、in junior high school というと、過去のあるときを指しています。この二つを合わせると、「過去のあるときに、今の状態がある」ということになり、矛盾した文章になってしまいます。つまり、現在完了形のhave doneは今の状態を表しているため、過去のある時を指定する語句と組み合わせることができないのです。

じゃ、haveを過去形にすれば、という発想をする学生もいて、I had played baseball in junior high school.のような文章を書きます。これはさすがに形として×ではないが、「中学校の時点では、野球を（すでに）やったことがあった」と、言おうとしている意味と全く違います。「中学校で野球をやっ

たことがある」を英語で言うなら、やはり過去のことですから、過去時制を用いて、これに「一度」とか「少し」「しばらく」などを表す語句を加えます。I played baseball a bit in junior high school.「中学校で野球を少しやった（ことがある）」。

では、現在完了形のhave doneは何なのか、どのように使ったらよいかは次のようになります。

(1) 今の時点での経験を述べる：「したことがある」

A : Have you ever climbed Mt. Fuji before?

「以前富士山に登ったことがある？」

B : No, I haven't. 「いいえ、ない」

I have never climbed Mt. Fuji. 「富士山に登ったことがない」

This is my first time. 「これが初めてです」

A : I have climbed Mt. Fuji three times. 「ぼくは富士山を三回も登っているよ」

(×I have ever climbed…肯定文にeverを使わないようご注意)

C : I know someone who has climbed Mt. Everest.

「エベレスト山に登ったことのある人を知っているよ」

Jones has been a teacher, a photographer, a professional boxer and an author.

「ジョンズは先生も、写真家も、プロのボクサーも、著者もやったことがある」

But he has never been successful at anything.

「しかし、何にも成功したことはないのです」

have doneは今までの経験を述べるのに用いますが、過去のある時点までの経験は過去完了形のhad done「したことがあった」、将来のある時点

テルキ デイブ

までの経験は未来完了形のwill have done「した [している] ことになる」を用いて表現します。

Up until three years ago I had never once climbed Mt. Fuji.

「三年前までは富士山を一度も登ったことはなかった」

After climbing today, I will have climbed Mt. Fuji four times.

「今日登ってから、富士山を四回登っていることになる」

I visited Thailand this past summer. Before that I had never been abroad.

「この前の夏、タイに行ってきた。それまで海外に行ったことがなかった」

Upon graduating from high school Japanese will have studied English for at least six years, and probably more.

「高校を卒業した時点では日本人は英語を少なくとも六年間、おそらくそれ以上、習っていることになる」

(2) その動作、作業などがもう完了している状態にあることを表す：

「している」「してある」

A : May I speak with Mr. Brown, please?

「ブラウンさんお願いします」

B : I'm sorry, but he has gone to China on business.

「申しわかりませんが、仕事で中国に行っています」

M : How's the report coming? 「レポートは進んでいるか」

N : I haven't finished it yet. 「まだ完成していないんだ」

I still haven't finished it. 「まだまだ完成してないんだよ」

I've finished it already. 「もう完成しているよ」

I finished it yesterday [a week ago]. 「きのう [一週間前] 完成した」

過去、今、未来の話を英語で

(×I have finished it yesterday [a week ago]. 現在完了形のhave doneは今の状況を表すので、過去のあるときを示す語句と一緒に用いません)

M: I've read your report and I have a couple of questions I'd like to ask.

「きみのレポートを読んでいて、いくつかお聞きしたいことがある」

N: I have decided never to write any more reports.

「もうこれ以上レポートを書かないことに決めているんだ」

過去のある時点での完了した状態を表すhad doneや、未来のある時点で完了した状態を表すwill have doneもあります。

I had finished the report last Thursday, but I hadn't submitted it yet.

「先週木曜日にはレポートは完成していたが、まだ提出していなかった」

I'm sure he will have read the report by the end of the week.

「週末までには彼はきっとレポートを読んでいると思う」

- (3) 動作などの現在完了進行形のhave been doingと状態の現在完了形のhave beenは、「過去から今も続いている状態」を表すのに用いられます。

I have been studying English for eight years now.

「今の時点では英語を八年も勉強している」

Mr. Reed has been an English teacher for thirty some years.

「リードさんは三十何年か英語の先生をしている」

Our institute has been researching cancer since its founding in 1948.

「わが研究所は1948年の設立以来癌の研究をしてきています」

I have been wanting [have wanted] to become a teacher ever since I was little.

「小さい時から先生になりたいと思っている」

I have been wantingの例で、なりたいと思っている状態が今も続いているので、まだ先生になっていない時点で言う文章となります。もう先生になっていれば、なりたいのは過去の話であって、過去完了進行形のhad been doingと過去完了形のhad beenを用います。

I had been wanting [had wanted] to become a teacher ever since I was little.

「小さい時から先生になりたいと思っていた」

または、ただの過去時制を用いて、I wanted to become a teacher ever since I was little.と、簡単に言ってもほぼ同じです。将来のある時点になっても、その状態がなお続いていることを表すにはwill have been doing（未来完了進行形）とwill have been（未来完了形）を用います。

After I graduate I will have been studying English for ten years.

「卒業したら、英語を十年習っていることになる」

Come September Ms. Jenkins will have been a teacher for twenty years.

「九月になるとジェンキンズさんは二十年も先生を務めていることになる」

6. 「未来」の問題

6-1. shallについて一言

英語で未来の話をするときは未来時制のwill do/be, be going to do/beを用いますが、伝統的にというか、ここへshall do/beとその否定のshan't do/beを持ち込む教科書があります（①pp.66～69. ②pp.82～83）。また、英

和辞典（③④⑤⑥）を見ますと、一人称の未来時制として次のような用例が書かれています：

I shall be 18 years old in February. 「二月で十八歳になります」

We shan't be home before 10:30. 「十時半までには帰らないよ」

Shall I be in time if I leave now? 「今出れば間に合うでしょうか」

しかし、こんな言い方を実際にする人になんか会ったこともないし、自分でもこんなのを言ったこともありません。近年のアメリカやイギリスで書かれた英語教材にだって、未来時制としてのshallを全く無視する傾向にあります（⑦p.171）。

現在、shallを使うといっても、Shall I help you with your luggage? 「お荷物、お手伝いしましょうか」とか、Shall we have lunch? 「お昼にしましょうか」のような申し出や提案として用いるぐらいでしょう。しかし、これでもかなり堅い言い方で、たとえば、若者たちのダンスパーティーでShall we dance?なんか言ったら笑われてしまいます。

要するに、未来時制のshallは全く無用のお荷物で、それ以外は助動詞として扱えば良い、ということになりますね。

6-2. 未来時制の「意味」とは？

英語でこれから行う／行われる動作や、これから来る状態などの話をするときには未来時制のwill do/be, be going to do/beを使えば簡単ですが、ここで文法学者たちが逆に問題を起こしています。

日本語の場合、「未来時制」というものはありません。未来の話をするときは未完了の「する」「なる」などを使います。これに未来の時を表す語句をつけたり、話の流れなど、その場の状況から「未来」と判断したりします。これが日本語の話し方で、困ることはいっさいありません。

しかし、英和辞典の編集や、文法の解説をする人たちの間では、英語の

一つ一つの単語やそれぞれの文法に対して、相当する日本語の単語や文法がどうしてもないといけない、という考え方が強いらしい。英語の未来時制のwill do/be, be going to do/beに相当する日本語はもともとなく、未完了の「する」「なる」だけでは「未来」という意味にはならないので、もっと「未来」の味わいを出すために、(1)「... する／なるだろう」(2)「... するつもり」という語釈にして、It will rain tomorrow. 「明日は雨が降るだろう」とか、I am going to go to Paris this summer. 「夏はパリに行くつもり」などのような例を挙げることになりましたが…。

6-3. 「だろう」だろうか

上の発想はわかります。つまり、英語のIt will rain tomorrow. は明日雨が降るようなことを言っているが、未来のことだから、100%確信して断言できるものではありません。あくまでも「推量」に過ぎないのです。推量は日本語では「だろう」という言い方を使います。したがって、英語のwill do (または、be going to do) の一つ目の意味は「... する／なるだろう」、というわけで、It will rain tomorrow. は、「明日は雨が降るだろう」となります。

未来について断言できないことは事実。というわけで、「明日は雨が降る」よりも、推量として「明日は雨が降るだろう」と言いたくなりますよね。この場合の「だろう」はどういう意味か、二つ考えられます：

- (1) 話し手自身の意見、「... 降ると思う」のような意味
- (2) 確率、「たぶん／おそらく... 降る」(80%~99%の確率) のような意味

英語の場合、(1)話し手自身の意見「と思う」を表すには I thinkを用います。たとえば、過去の話だと過去時制につけて、I think Taro took an exam last Thursday. 「太郎は先週木曜日試験を受けたと思う」と言います。「今やっている最中」の話なら、be doingにつけて、I think Taro is playing soccer now. 「太郎は今サッカーをやっていると思う」となります。未来の

話も同じです。推量の「と思う」の意味を表したかったら、未来時制に I thinkをつけて、I think Taro will pass the exam. 「太郎は試験に合格すると思う」「太郎は試験に合格するだろう」と言います。未来時制だけでは「と思う」を表さないのです

では、(2)確率はどうでしょうか。確率の [たぶん]「おそらく」は英語では probably とか very likely などと言います。過去の話の「太郎はたぶん先週木曜日試験を受けた」の場合、過去時制につけて、Taro probably took an exam last Thursday. というし、「太郎はたぶん今サッカーをやっている」は、be doingにつけて、Taro is probably playing soccer now. と言います。未来の話も同じです。「太郎はたぶん試験に合格する」「太郎は試験に合格するだろう」のように未来に対する確率を表したければ、未来時制に確率を示す probably などの語をつけて、Taro will probably pass the exam. などと言わなければなりません。未来時制だけでは確率なんかは表していないのです。Taro will pass the exam. と言ったら、「太郎は試験に合格するのだ」と、断言することになるのです。「推量」の「だろう」はどこにもないのです。

明日雨が降る話に戻りましょう。未来について断言できないことは日本語だけではなく、英語だって同じです。ですから、It will rain tomorrow. = 「明日は雨が降るだろう」、というのは、日本人が勝手に考えた解釈です。ですから、ネイティブ・スピーカーは It will rain tomorrow. と断言するよりも、やはり「明日は雨が降るだろう」のように、I think it will rain tomorrow. 「明日、雨が降ると思う」とか、It will probably rain tomorrow. 「明日はたぶん雨が降る」とか、確率も意見も一緒にしたら、I think it will probably rain tomorrow. 「明日、たぶん雨が降ると思う」というように表現するでしょう。

話をまとめると、多くの英和辞典や英語の教材が教えているのと違って、英語の未来時制 will do と be going to do そのものには「だろう」のような「推量」の意味が伴わないのです。未来に関する意見や確率性を表したけれ

テルキ デイブ

ば、I thinkとかprobablyなどの語をつけたり、別の助動詞を用いたりする
必要があります。参考のために：

Maybe it will rain tomorrow. 「明日は雨が降るかもしれない」

It might [may] rain tomorrow. 「ひょっとすると明日は雨」

I think it might rain tomorrow.

「ひょっとすると明日は雨が降るかもしれない」

There's a good [slight] chance that we'll get a bit of rain tomorrow.

「明日は雨が多少降る確率が高い[低い]」(天気予報で使うような文章)

It looks like it might rain tomorrow. 「明日は雨が降りそうだ」

It's supposed to rain tomorrow. 「明日は雨が降るそうだ」

次は英和辞典で見られるような例文ですが、日本語訳が全部間違っています。推量の「だろう」「でしょう」を消して、[よ]とか「のだ」にすれば、より英語に近い日本語になります。

We will be in New York next month.

「来月ニューヨークにいるでしょう」

You won't pass the exam unless you study harder.

「もっとしっかり勉強しないと試験に通らないだろう」

You will get well soon. 「すぐ良くなるでしょう」

We will be very busy tomorrow. 「明日はとても忙しくなるでしょう」

6-4. 「つもり」のつもりもわかるが…

I'm going to go to Paris this summer.

という英文は夏パリに行くようなことを言っているが、未来のことですか

ら、本当に行けるかどうか、実行できるかどうかわかりません。あくまでも本人の「意志」なのです。意志であることを日本語で表すのには「つもり」という言葉を用います。したがって、英語の未来時制のbe going to do (またwill do) の二つ目の意味は「... するつもり」で、上の英文の訳は「夏はパリに行くつもり」となります。

さて、どうでしょうか。調べるために夏の予定についての会話を次に書いてみました。

A : What are you going to do this summer?

「夏は何をするつもり？」

B : I'm going to go to Paris.

「パリに行くつもり」

A : What are you going to do in Paris?

「パリで何をするつもり？」

B : I'm going to meet my friend Pierre, and we're going to visit the Louvre together.

「友だちのピエールに会うつもりで、一緒にルーブルを訪れるつもり」

Also I'm going to ride the metro and visit Notre Dame Cathedral.

「また、メトロに乗るし、ノートルダム寺院を訪れるつもり」

Then I'm going to take pictures from the top of the Eiffel Tower.

「それから、エッフェル塔の上から写真を撮るつもり」

I'm going to meet all kinds of people, and I'm going to practice conversing in French.

「いろいろな人に会うつもりで、フランス語の会話を練習するつもり」

Pierre is going to visit Notre Dame with me, but he said he isn't going to go to the Eiffel Tower.

「ピエールと一緒にノートルダムを訪れるつもりだけど、エッフェル塔には行かないつもりだと言っている」

Instead he and his girlfriend are going to invite me to dinner at their favorite restaurant.

「その代わりに、彼と彼女が一番好きなレストランに食事に誘ってくれるつもり」

But how about you? What are you going to do over summer vacation?

「だけど、君はどうなの？夏休み中何をするつもり？」

A : Mostly I'm going to stay home and study.

「たいてい家にいて勉強するつもり」

I'm going to go on to graduate school, you know.

「大学院に進学するつもりだからね」

Also I'm going to go to the ocean once or twice as well.

「また、海に一~二回行くつもり」

Other than that I'm not going to do much of anything.

「ほかには大したことをやらないつもり」

My sister is going to be in Finland for a month or so though.

「妹がひと月ほどフィンランドに行っているつもりだけど」

Oh, yeah! I just remembered.

「そうだ!今思い出した」

I'm going to go shopping in Chinatown in Yokohama with a friend.

「友だちと横浜の中華街に買い物に行くつもり」

これを日本人に見せたら、「つもり」が多すぎると笑われちゃった。じゃ、「つもり」は何回使えばいいか、と尋ねると、何回かということでもないが、全然使わなくてもいい、ということだそうです。

要するに、人間はこれから将来の動作や行動などの話をする時点では、本当に実行できるかどうか、誰もわかりません（次の瞬間死ぬことだってありえますからね）。このような未来の話はすべて「意志」「つもり」。人間

としてわかっていることですから、いちいち口にする必要はないのです。

さて、同じ会話を英語のネイティブ・スピーカーに見せるとどうなるのか。未来時制が多すぎるなど、全然笑われませんよ。なぜかと言うと、「意志」「つもり」みたいなことは一度も言っていないからです。英語の未来時制のbe going to do, will doはただ「これから未来にする」という意味しかありません。「するつもり」という解釈は、また英語の形に相当する日本語の形がないといけないと勝手に決め付けた文法学者が勝手に考えたものにすぎないのです。もし、「夏はパリに行く」に「つもり」「予定」であることを表したければ、次のような言い方が参考になります：

I plan to go to Paris this summer.

「夏はパリに行く予定 [つもり] なんだ」

I intend to go to Paris this summer.

「夏は（どうしても）パリに行くつもりだ」

I'm thinking of going to Paris this summer.

「夏はパリに行こうと考えている」

I would like to go to Paris this summer.

「夏はパリに行きたいなー」

I hope to go to Paris this summer.

「夏はパリに行けるかなと思っているけど」

また参考のために、英和辞典に載るような例文とその日本語訳を見てみましょう。間違っている部分を下線で示しています。

I will come home by 6:00. 「6時までには戻るつもりです」

We will go there next month. 「私たちは来月そこへ行くつもり」

I won't see her anymore.

「もう彼女とは会うつもりはない」（会わないということ）

I am going to do it myself. 「私はそれを自分でやるつもりだ」

Are you going to sleep all day? 「一日中寝ているつもりなの?」

What are you going to do when you retire?

「退職したらどうするつもりですか」

I will do as much as I can. 「できるだけことはするつもりです」

6-5. will doかbe going to doか、どちらにするか

さて、未来の動作、行動などや、将来の状態などの話をするときは未来時制のwill do/be, be going to do/beを用いるのですが、会話や作文でどちらを使えばいいのかという質問が当然出てきます。従来の教え方ですと、will doがメインで、思いついたかのように、「willの代わりにbe going to…を用いることがある」(④p.1601) と、be going to do/beを一言で済ませることが多い。それに、形の上ではwill do/beのほうがいくらか簡単、ということから、学生の作文にも未来の話をwill do/beで表現することが圧倒的に多いのです。たとえば、I will go to Finland this summer. 「この夏フィンランドに行く」のような文章がよく見られます。しかし、×とは言わないにしても、やはりネイティブ・スピーカーとしてそうは言わないなど、若干の違和感があります。

will doもbe going to doも未来の事柄を話す時に用いるし、どちらもこれから「する」「なる」と訳すし、どちらを使っても全くかまわない、ということが多いのです。

The weatherman said it will probably [is probably going to] rain tomorrow.

「明日たぶん雨が降ると天気予報で言っていた」

I will be [am going to be] nineteen next month. 「来月19歳になる」

Will you never be [Are you never going to be] satisfied?

「いつまでたっても満足しないのかよ」

しかし、特に人の動作や行動の場合、ネイティブ・スピーカーはやはり使い分けることもあります。その動作を、「よし、やろう」のような、言った時点での「決意」として言うなら、will doのほうを使い、一方、「することになっている」のような、すでに決まった「予定」として言うときは、be going to doのほうにします。「この夏フィンランドに行く」というのは学生が夏の予定の話をしているので、I will go to Finland this summer.よりも、I'm going to go to Finland this summer.のほうが状況に合っています。逆に、次のような会話もあります。

A : What are your plans for the summer? 「夏の予定は？」

B : I haven't decided anything yet. 「まだ何も決めていないけど」

Wait! I know! I'll go to Finland!

「待ってよ！わかった！フィンランドに行こう！」

「決意」としてのwill doと「予定」としてのbe going to doの用例をもう少し見ましょう。どちらにするかはあくまでどちらがその場の状況に合っているかの問題で、「よし、やろう」とか「することになっている」と訳すわけではありません。

A : The meeting starts at 7:00. 「会合は7時からなんだ」

B : Do you know if anyone is going to come late?

「遅れていく人がいるかどうかわかる？」

C : I'll try not to be late! 「ぼくは遅刻しないようにしとくよ」

Here! I'll help you with those bags.

「ちょっと、お荷物をお手伝いしますよ」

I'm going to help Mary with her bags this afternoon.

「午後、荷物のことでメアリーの手伝いをするんだ」

Maybe I'll go on to graduate school, or maybe I'll get a job. I haven't

decided.

「大学院に進学するかもしれないし、就職するかもしれない。決めていない」

I'm going to go on to graduate school, and after that I'm going to get a job.

「大学院に進学し、それからその後就職する」

A : I'm going to go to the concert on Saturday.

「土曜日のライブに行くんだ」

B : I'll go with you, if it's alright. 「よかったら、一緒に行くわ」

A : Sorry, but I'm going to go with Mie. 「悪いけど、ミエと行くさ」

6-6. 未来の予定を述べる

未来時制のbe going to do/beは確かに形として長い。特に、I'm going to go to Paris next month. 「来月パリに行く」のような文章のgoを繰り返すのがつまらない。というわけで、ネイティブ・スピーカーは省略して、I'm going to Paris next month.と言ってしまうことが普通になっています。goだけではなく、他の動詞の場合も、be going to do ⇒ be doing、つまり、下線のgoとdoを省いて、-ingをメインの動詞に付ける、という省略した形が一般に使用されています。

I'm going to leave on the 18th. ⇒ I'm leaving on the 18th.

「18日に出発」

しかし、このように省略するとともに、「することになっている」というニュアンスがいつそ強くなり、将来の「予定」を述べるのによく用いられています。

I'm spending two days at the Louvre, and then I'm flying to Moscow.

過去、今、未来の話を英語で

「ループル美術館で二日過ごしてから、モスクワへ飛ぶ」

We're having a birthday for Alice next Tuesday. I hope you can come.

「来週火曜日アリスの誕生日会をするの。来られるといいわよ」

We're having pizza and salad and a big birthday cake.

「ピザとサラダと大きなケーキの御馳走だわ」

ご覧のように、未来時制のbe going to doの省略した形が、「やっている最中」のbe doingと同じになってしまうが、話では今やっていることを言っているのか、予定を述べているのかわかるので、困ることはありません。

未来進行形のwill be doing、be going to be doingというものあって、未来のある時に「している最中」と、未来の状況を描くのに用います（**4-2. 当時の状況を描く参照**）。

I will most likely be watching TV when you call.

「電話をかけてくれる時はおそらくぼくはテレビを見ている最中だろう」

未来の状況をこれからの「予定」として述べると、その予定が相手の行動に何らかの影響を与え、「するから」「するので」のような意味になります。

We'll be eating at 6:00.

「6時に食べるので」（そちらの行動を合わせるように）

I won't be coming back for a while.

「ぼくはしばらく帰ってこないのよ」

I'll be studying for the exam all weekend, so I can't go skiing with you guys.

「週末ずっと試験の勉強をやっているんで、君らとスキーに行けないんだよ」

Tom is going to be coming late. But we can begin the meeting without him.
「トムは遅れてくるから。だけど、彼なしで会議を始めても良いだろう」

7. 「現在」の問題

7-1. 現在時制：呼び名・使用は「無限」

現在時制を動詞の形だけとして言うときは「現在形」という言い方をしています。この現在形は動詞を辞書に記載するために用いられるので、「見出し語の形」とも言うし、文法の構造に使われた場合、「動詞の原形」とも言っています。現在時制の示す時から考えると、過去から未来を通して[時全体]「限定されない時間」「無限」という要素があります。「無限」は英語で“infinity”と言いますが、これをもとに現在形の別名を“infinitive”と言っています。日本での英文法では現在時制の「限定されない」要素を見て、「不定詞」と名をつけています。

現在時制は日常的行動や習慣、また動作などの頻度を言うときに用いることを3-3. で説明した通りですが、それ以外にもたくさん使われています。たとえば、ある真理や事実を述べるのに用います。

Two times two equals four. 「2掛ける2イコール4」

The moon travels around the earth. 「月は地球を回っている」

In winter it gets dark around 4:30. 「冬は4時半ごろ暗くなる」

Do you get much snow where you live?

「きみの住んでいるところは雪が多い？」

It doesn't snow so much here. 「ここでは雪はそんなに降らないよ」

また、ルールややり方、作り方、使い方、行き方などを言うときにも現在時制を用います。

過去、今、未来の話を英語で

Use the present tense when giving rules, or when telling how to do, make or use something, or how to get somewhere. (上の文の英訳)

To use this bread maker, first plug it in, then press SELECT MODE.

「このパン作り機を使うときは、まずコードを指しこみ、次はSELECT MODEを押しましょう」

Go to the next corner and turn right. It's the third house on the left.

「次の角に行って右に曲がる。左側の三つ目の家です」

命令にも使います。命令と言ってもかならずしも厳しい言い方ではありません。「しろ」「しなさい」「してね」「して頂戴」などと、厳しさがその場の状況や声の調子、please (お願い) などの使用で変わります。

Open your textbooks to page 8. 「教科書の8ページを開けて」

Pass the salt. 「塩をとって」

Clean up your room! After that do your schoolwork! And don't complain!

「部屋を片付けろ!その後勉強しろ!そして文句言うな」

ある動作は、口に出すことによって実行することになります。この場合は現在形を用います。

I vote for candidate A. 「候補者Aに投票します」

I apologize for trampling on your flowers.

「お花を踏みつぶして、お詫びを申し上げます」

I accept your apology. 「ご謝罪をお受けしました」

I propose we build a new hospital.

「新しい病院を建設することを提案します」

I agree with your proposal. 「ご提案に賛成」

小説、劇、映画などの筋書きを語るときもよく現在時制を用います。

The old man ties the giant swordfish to the side of his boat. But as he rows back to the harbor, sharks come and eat the fish, and leave nothing but the bones.

「老人は巨大なメカジキをボートのわきに結び付ける。しかし漕いで港に戻るところ、サメが来て魚を食べて、骨だけしか残さない」

つまり、一度読んだ、観た、聞いた人から考えるとその話は「過去」と言えるかもしれませんが。しかし、まだ読んでいない、観ていない、聞いていない人の場合、あるいは、いつかもう一度読もうと思っている人の場合は、その話やその中の動作・状態などはこれから「未来」というのでしょうか。やはり小説、劇、映画の話は時から孤立して、いつとは言えないものなので、現在時制がぴったり、ということになります。

これと似たように、過去のスポーツ試合中のあるプレーや歴史に残った出来事などが、時を越えて今でも目の前で行われているような気持ちで現在時制を用いて語ることがあります。この用途は「歴史的現在」(historical present) という、おしゃれな文法用語をつけられています (④p.1648)。

With one second left, Brown passes to White, and White shoots!

「残り一秒で、ブラウンがホワイトにパス、ホワイトがシュート!」

7-2. 「常時に」vs.「やっている最中」「一定の期間」「一時的」「仮に」

「現在」の動作、行動、作用などを英語で表すのにいちばん問題を起こすのは日本語の「している」と言えるかもしれません。「している」はもちろん「今やっている最中」の動作などを表すのに用いるが、「長期間続いて」「常時に」「日常的に」「習慣として」やる動作、行動を表すのにも使いま

す。

島には水道がない。島民はためた雨水を飲んでいる。

ほら、あの人が雨水を飲んでいる。

一方、英語の場合は、「今やっている最中」の動作などをbe doingで表すが、「常時に」「日常的に」する、行われる動作などは現在時制で表します。

There is no fresh water plumbing on the island. Islanders drink the rainwater they collect. (are drinkingはおかしい)

Look! That person over there is drinking rainwater!

(drinksはおかしい)

この区別は常にきちんとする必要があります。

I listen to music nearly every day. Right now I'm listening to Beethoven.

「ほとんど毎日音楽を聴いている。たった今、ベートーベンを聴いている」

Whenever I visit Paris I stay at the ABC Hotel. This time however, I'm staying at the XYZ Hotel.

「パリを訪れるたびにA B Cホテルに泊まる。しかし、今回はX Y Zホテルに泊っている」

現在時制の「常時に」に対して、be doingは始まりがあって終わりがある「一定の期間」を示し、「一時的に」「仮に」というニュアンスがあります。

I live in Yamagata, but I'm living in Chiba while attending the university.

「山形に住んでいるが、大学に行っている間は千葉に住んでいる」

I practice writing in English one hour every day, and this semester I'm taking English composition.

「毎日一時間英語で書く練習をしているし、今学期英作文をとっている」

状態の場合も同じ。「今」、また「常時」の状態を現在時制で表し、その期間だけの「一時的な」「仮の」状態はbe beingなどで表します。

Jordan is funny. 「ジョーダン面白い」(面白い人だ)

Jordan is being funny.

「ジョーダンは(今この場で) おかしいことを言っている」

I love McDonald's. 「マクドナルドが好き」

"I'm lovin' it!" (今食べている最中) 「おいしくてたまらないよ」

I don't think it's such a good idea. 「あまりいい考えじゃないと思うよ」

I'm thinking it might not be such a good idea.

「(仮に)あまりいい考えじゃないかもしれないと考えているんだけど」

A : Tom is very courteous, don't you think?

「トムは大変礼儀正しい人だと思わない?」

B : No. He's just being polite.

「いや、(この場に限って) お世辞だけさ」

7-3. この様だから!

4-2. で当時の状況を描くにはwas doing、6-6. で未来の状況を描くにはwill be doingを用いることを説明していますが、同じように、現在の状況をbe doingで描くことができます。これにalways (いつも)、forever (常に)、constantly (絶えず) などをつけると、「こっちが何かをしたいのに、それをやってばっかりいるんだ」といった苦情となります。

I'd like to ask her out, but she's always studying or talking with her friends!

過去、今、未来の話を英語で

「彼女をデートに誘いたいけど、いつも勉強か友達とおしゃべりばかりやってんだ」

Bill's forever taking pictures! No time for anything else!

「ビルはいつも写真ばかり。ほかのことをやる時間がないってさ」

You're always busy [doing something]!

「いつも忙しい [何かやって] んだから!」

Mom's constantly nagging me to study and do my home work!

「お袋は勉強しろ、宿題しろと、年中がみがみ言ってんだから」

7-4. スケジュールを述べる現在形

現在形は予約とか、時刻、日程などを伴うスケジュールを述べるときによく用いられます。一方、ただの未来の行動や、6-6. で話した、個人的に決めた「予定」などを述べるのには使いません。

Our club meets next Wednesday at 7:00, but I am going to get there a bit late.

「クラブは来週水曜日の7時に集まるんだけど、ぼくはちょっと遅れていくんだ」

(遅れるのは個人の都合なので、現在形のI get there…は言わない)

There's a BB concert on the 22nd. I'm taking Mie.

「22日にBBのライブがあって、ミエを連れていくんだ」

We have finals next week. After that I'm going to go to Thailand for a week.

「来週は期末試験。そのあと一週間タイに行ってくる」

My plane departs at 3:15, so I'm going to try to get to the airport around 1:00.

「飛行機は3時15分出発なので、空港には1時ごろ着くようにしようと思う」

現在時制のこの使用については「近い未来の予定を表す」(①p.53)とか、「近い未来を表す語句 (tomorrow、next weekなど) を伴う」(②p.85)などと説明していますが、スケジュールには「近い未来」などは関係ないのです。

He gets out of prison in fifty years. 「彼は50年後に刑務所から出る」

7-5. 未来の時を示す副詞節

また、このような説もあります：

「未来の『時・条件』を表す副詞節中では、現在形は未来時制の代用を表す」(①p.53)

「時・条件を表す副詞節中では、未来のことであっても現在時制を用いて表す」(②p.85)

要するに、副詞節全体が未来の時を表しているから、その中の動詞も未来時制のはずだ、という考え方らしい。たとえば、これから試験を受ける学生たちに「ベルが鳴ったら (または、鳴ったとき) 始めなさい」と指示するとします。これを英語で言うと、Begin when the bell rings. と、現在時制を用いて表現しますが、本当はそうでなくて、未来時制のBegin when the bell is going to ring.と**言うはずだ**、ということらしい。

さて、本当にそうでしょうか。同じような発想を未来の時を表す日本語の副詞節に当ててみましょう。

未来というのはまだ「未完了」でしょう。ですから、たとえアメリカに帰る友人に向かって「次回日本に来たとき電話ちょうだい」と言っても、節中の完了 (過去形) の「来た」は、節全体が未来の時を表しているので、本当は未完了 (現在形) の「来る」の代用をして、「次回日本に来るとき電話ちょうだい」という文章なのです。

しかし、待ってよ。「次回日本に来たとき電話ちょうだい」も、「次回日本に来るとき電話ちょうだい」も、両方とも確かに未来の時を表しています。しかしながら、それぞれの指す時が違うのではありませんか。完了（過去形）の「来た」を用いた文章は次回日本に来てから電話ちょうだいという意味であって、これに対して、未完了（現在形）の「来る」を用いた文章だと、まだ日本に来ていない、出発する前に電話ちょうだいということを言っています。つまり、未来の時を表す副詞節では、完了の過去形が本当は未完了の現在形の代用をする、という説は日本語の場合明らかに間違っています。

では、英語に戻って、未来の時を表す副詞節中の現在形が未来時制の代用をするという説をもう一度考えましょう。

まず、「次回日本に来たとき電話ちょうだい」を英語で言うと現在時制を用いて、Call me the next time you come to Japan.となります。（注意：日本語は「過去形」だから、英語も「過去時制」と思ってCall me the next time you came to Japan.という英文にすると、「次回日本に来ていた時電話ちょうだい」と、時がめちゃくちゃの文章になってしまう。）次、日本に来るのはまだ「未来」だが、そうする「ことになっている」「予定」であることを言っている「次回日本に来るとき電話ちょうだい」は英語でどう表現しますか。6-5. の話を思い出せば、未来時制のbe going to doがぴったりでしょう。Call me the next time you are going to come to Japan. また、6-6. で話したように、be going to doの省略した形be doingも有用：Call me the next time you are coming to Japan.

つまり、副詞節全体が未来の時を表すから、中の動詞も、たとえ現在時制でも、未来時制だという説はどうもウソだったのです。現在形を用いる場合、その動作が「終わった」「完了」ということを示しています。日本語では「したら」「したとき」と表現します。一方、中の動詞が未来時制の場合、その動作がまだ「未完了」「これから」ということを言っています。日本語では「(まだしていないが、これから)するとき」と言います。

ついでに、条件の副詞節も同じようです。

I'll go if Jerry goes. 「ジェリーが行ったら、ぼくも行く」

I'll go if Jerry is going to go. 「ジェリーが行く(予定)なら、ぼくも行く」

I'll go if Jerry will go.

「ジェリーが(よし)行く(と言う)なら、ぼくも行く」

では、今の解説を最初に出した例文に当ててみましょう。Begin when the bell rings. は現在形なので、ringと言う動作が「完了」「終わった」。日本語では、「ベルが鳴ったら [鳴った時] 始めなさい」と言います。一方、Begin when the bell is going to ring. という文章もあり得ますが、動作のringは未来時制なので、「ベルがまだ鳴っていないが、これから鳴る時」を示し、そんな時に「始めなさい」、ということを行っています。だったら、問題・解答紙を手に入れた時からベルが鳴る直前まで、いつでも始めてもいいということになります。

【参考文献】

- ①羽島博愛(代表)、「MY BEST よくわかる英文法」、学習研究社、2008年
- ②小寺茂明(監修)、「デュアルスコープ総合英語」、数研出版株式会社、平成12年3月1日
- ③「アンカーコズミカ英和辞典」、学習研究社、2007年
- ④「ライトハウス英和辞典」、研究社、第4版、2002年
- ⑤MACMILLAN ENGLISH DICTIONARY, Macmillan Education, 2002
- ⑥LONGMAN DICTIONARY OF CONTEMPORARY ENGLISH, Pearson Education Limited, 2003
- ⑦Martin Parrott, GRAMMAR FOR ENGLISH LANGUAGE TEACHERS, Cambridge University Press, 11th Printing, 2006